



北山太樹：5分でできる海藻押し葉（アイロン法） —筑波実験植物園の場合—

本誌「会員のページ」でも紹介されてきたように、海藻の押し葉作りは、ふだん藻類に関心を持つことがない多くの人々をふりむかせる手っ取り早い方法のひとつである。海藻にかかわる研究機関にはアウトリーチ活動の一環としてオープンラボなどでこれを体験させるコーナーを設けるところが少なくない。しかしながら、海藻の押し葉は藻体の乾燥を終えるのに最低でも一晩を要してしまうため、大学の臨海実習とは異なりその日限りのお客さんを相手にする公開行事では、短時間ですべてを終える工夫が必要となる。おそらくは企画の担当者は頭を悩ませた挙げ句、次善の策として、1) 段ボール板にはさんで押しをかけるところまでを体験してもらい、後日乾燥が完了した藻体を参加者へ郵送する、2) 段ボール板にはさんだ状態で持ち帰ってもらい、自宅の扇風機で乾燥を続けてもらう、3) あらかじめ紙に乾燥させた藻体を配布する、4) 電子レンジで加熱する、のいずれかの方法をとっているものと推量されるけれども、その場で完成品を渡せない(1, 2)、生の海藻から体験できない(3)、藻体が縮んで仕上がりがよくない(4)など、それぞれに難点がある。筆者はこれを解決できる方法がないのかと長年思索してきたが、ひとつの手法に辿り着いたので紹介したい(図1)。

国立科学博物館附属の筑波実験植物園(愛称:かほく植物園)では2004年から毎年、学校の夏休みにあわせて「植物園夏休みフェスタ」を開催し、その一企画として「海藻の押し葉体験コーナー」を設けている。そこでは、海水を循環させた生け簀(水槽)に大量に用意した生のナガアオサ(大洗産)を参加者に自由に「採集」し

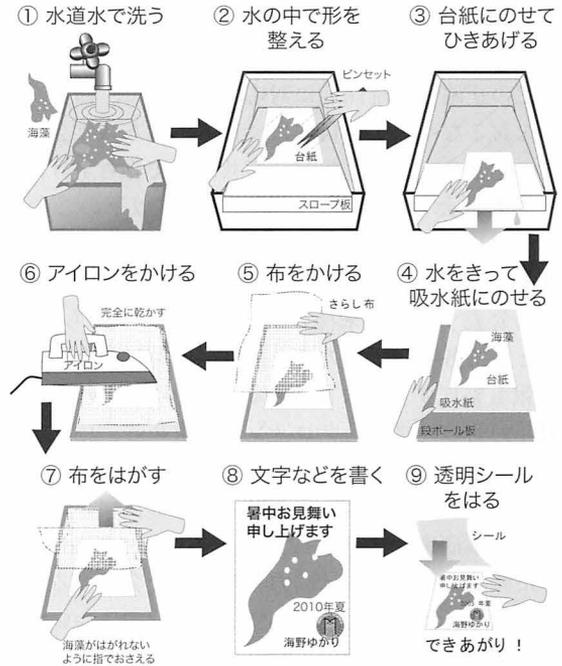


図1 筑波実験植物園式海藻押し葉アイロン法



図2-5 筑波実験植物園「夏休みフェスタ 海藻押し葉体験コーナー」の様子。2. ナガアオサの生け簀。3. アイロンによる加熱。押しをかけながら乾燥できる。4.マジックペンなどで文字や絵を書き入れて暑中見舞いハガキを製作。5. 完成品。

てもらい(図2)、それを材料に思い思いのデザインで作製した押し葉を電気アイロン(4台準備)を用いて加熱・乾燥してもらっている(図3)。3-5分で乾燥でき、その場でお土産として持ち帰っていただけるので好評である(図4)。この海藻アイロン法は、2002年7月に開催した企画展「海の植物展」で最初に試行したもので、同年つくばで開催された国際シンポジウム「Algae 2002」に参加した米国の研究者も絶賛してくれた(オープンラボのネタづくりは世界共通の悩みであるようだ)。材料のナガアオサは、大洗では7月まで良好な状態で生育しており、水温を低く(8-10°C)保つことで2週間前後維持することが可能(それ以上は水槽内で成熟して色を失ってしまう)である。なお、褐藻類は加熱による変色が著しいため使用していない。乾燥にアイロンを使う手法自体は羊歯など維管束植物では古くから実用されていて、新しいものではない。

季節柄、暑中見舞いハガキとしてつくってもらっている(図5)が、もったいなくて使えないというお客さんの声もつばらである。

(国立科学博物館)

【国立科学博物館筑波実験植物園】

所在地：〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1。Tel：029-851-5159。Fax：029-853-8998。HP：http://www.tbg.kahaku.go.jp/index.php。交通：つくばエクスプレス秋葉原駅→つくば駅下車→関東鉄道バス・テクノパーク桜循環つくばセンター→筑波実験植物園前下車→徒歩2分。開園時間：9:00-16:30(入園は16:00まで)。休園日：毎週月曜日(日・月祝日の場合は開園)、年始年末(12月28日～1月4日)。入園料：一般・大学生300円(20名以上の団体は200円)、高校生以下・満65歳以上無料。